

すさまじい人生

de JA1RIZ

正月が過ぎて間もない1月8日、実家の母が散歩途中で転倒し左股関節骨折してしまった。すぐ救急車で一次病院に搬送されたがその病院では手術等の対応ができなかったようで、別の整形外科病院に転送される。母はなんといっても95歳の高齢。検査や体調等の様子を見てから手術にしようということであった。1月12日には病院で手術の説明があった。手術は左足の4箇所ほどに穴を開けてチタン金属を挿入するというもので、その手術自体は20分程度とのことでしたが、全身麻酔等の前後処置があり手術に入って出てくるまでは約2時間位とのこと。

結局、手術が行われたのが1週間後の1月16日で股関節周辺の骨にチタン金属をいれてボルトで留めるという様な方法でした。時間はほぼ事前説明の通りでした。執刀医から術後すぐにレントゲン写真を見せていただいたが、シッカリとボルト金具が写っていました。手術は成功しました。

術日の夜から2日間程は相当な痛みだったようで大声で訳の分からないことを口走っていましたが、その後落ち着き安静に過ごすようになりました。傷口などの状態などにもよる様ですが痛くても早くリハビリを始めるほうが良いというのが定説のようなので、早目のリハビリが良いのではないかと思っていました。病院からは今後の治療スケジュールが説明されなかったもので、2週間程経ったとき病院長にその旨質問しましたが、あと1週間程度以上様子を見てみないとなんとも言えない様な返事でした。ところが、その翌日にはリハビリが始まったと、付き添いの妹から連絡が入り、それまで信頼していた病院にビックリするやらガッカリするやら。リハビリの方は幾度か試みたようですが結局は、その後1週間以上ほとんど何もせず寝たきり状態のようであった。

また、付き添い・看病は実家に同居している妹が負っている状態でしたが、その妹ができることなら市内のこの病院から転院させて、地元の町の病院にして欲しいと願って町の病院に相談すると、なるべく早く転院できるよう取り計らってくれるとの事。するとその翌日には入院中の病院から急に「明日には転院してもらいます」と。結局、術後25日経ったとき、町の病院に転院する運びとなった訳です。(その間、ケースワーカーや相談員さん達の援助あり)

家族の要望は、「母が自力で用足し出来るように回復してもらいたい」というものですが、町の病院ではそれを聞いて積極的にリハビリしてくれている。

実は母は認知症でもある。対応も大変なことと思うのですが、看護師、介護士、療法士の皆さんは明るくキビキビと働いている。病院内も掃除が行き届いて、老人が多い割に独特な臭いも感じられない。

この病院は、徳洲会グループであった。議員選挙など政治関連の問題では良いイメージ

ではなかったが、『医療』に関しては「赤ひげ先生」のような《命だけは平等だ》の理念を持って活動しているという。

- (1) 年中無休・24時間オープン(ただし、急患)
 - (2) 健康保険の3割負担も困っている人には猶予する
 - (3) 入院保証金・総室(大部屋)の室料差額等一切無料
 - (4) 医療技術・診療態度の向上には絶えず努力する
 - (5) 患者からの贈り物は一切受け取らない
 - (6) 生活資金の立替・供与をする
- を患者に対する主な公約に掲げている。

前記の通り、病院が清潔でその職員が親切・明朗なのも分かる気がしました。

実家のある町には15年程前に設立・開院していましたが、今まで機会がなかった性か良く分かりませんでした。見舞いに行ってみて病院の理念など知ることになりました。「赤ひげ先生」のような理念を掲げ、実践している医療機関は少ない現状という中で有り難いことであります。こういう病院がもっと増えてもらいたいと願っています。

この徳洲会の創始者は徳田虎雄氏で、政治家の時代には悪いイメージで名をはせていたことを知る人も多いと思います。氏は現在、ALS(筋萎縮性側索硬化症)という難病に罹って闘病中です。「手足やのど、舌の筋肉がだんだんやせて力がなくなり、胃瘻と人工呼吸器の装着」(※「内」は氏の著書:生きる力から抜粋)状態で、目の動きで透明の文字盤を追って「意志」を外部に発信しているという。前記の理念の病院を現在までにいくつも創っているが、日本中に、更に世界中にそれを広げてゆきたいという。その執念がすごいものです。

徳田虎雄を題材にしたマンガ、氏自身の著作本、ジャーナリストが書いたトラオ像また、徳洲会のHPなど情報は結構多くあるようです。一度見てみたらいかがでしょうか。

すさまじい人生と感動を感じられるかもしれません。

歳の性もあるかも知れませんが、それらの本を読んだとき熱いものがこみ上げてきて、暫らく読み続けられなかったことが幾度もありました。

母の怪我のことから、今の医療のことをつくづく考えさせられました。拙文は徳洲会病院の宣伝の様になってしまいましたが、意を持ってしているのではないことをお断りしておきます。

我々の身の回りには、病気や認知症、看護等々医療の問題が押し寄せていて、避けて通れない問題です。

『病院』のことも、よくよく情報収集しておいたほうが良い時代かと思っております。

(完)